

2023 年度 授業改善アンケート集計結果に対する意見

—共通教育研究センター—

センター長 岩佐光晴

全学共通教育科目群は各学部の専門科目とは別に、学部や学年という枠組みを越えて受講できるという大変ユニークな内容を持ち、本学の授業の一つの特色ともなっている。内容も多彩で、受講者が学部や学年を越えて交流できることもあり、毎年、受講者から好評を得る科目も多く含まれている。2023 年度の授業改善アンケート集計結果を見ると、本科目群の特性が活かされていることを数値から読み取れるように思われる。

まず全学共通教育科目においては、2022 年度と同様に各項目ともほぼ全体の平均値に近い数値を得た。これはその授業内容に関して、一定の水準は保てていることを示すと考えてよいと思われる。授業の手法においては、前期では「学生によるコメントペーパー」の項目のみが平均値と比較して高い数値を得たが、後期ではこれに加えて「外部講師招へい」「プレゼンテーション」「グループワーク」の項目でも、平均値よりも高い数値を示しており、より自由度が高く、教員と学生との交流が積極的に行われている傾向がうかがえる。受講生が身についたと感じた資質・能力については前期では「柔軟な発想力」「俯瞰力」「人脈形成力」が平均値よりも高い数値を示しているが、後期ではそれらの数値がさらに高くなっていると同時に、「構想力」「課題発見力」「課題解決力」「コミュニケーション能力」「プレゼンテーション能力」「統率力」「協働力」においても、平均値より高い数値を示している。これらは、いずれも社会に出てから役に立つ能力であり、本科目に学生が慣れていくに従って着実に身についていく傾向を示し、本科目のもつ役割と特質を浮き彫りにしているといえよう。

スポーツ・ウェルネス実技では、2022 年度と同様にほとんどの項目において全体の平均値よりも近い数値を得た。授業の手法においては「フィールドワーク」「グループワーク」「問題解決型授業」の項目が平均値よりも高い数値を示しているが、これは本科目の特性を示していると思われる。また受講生が身についたと感じた資質・能力については「コミュニケーション能力」「人脈形成力」「統率力」「協働力」において平均値よりも際立って高い数値を示しており、本科目が人間形成の上で極めて有効であることを物語っている。

今年度は、授業科目の見直しを行う時期に当たっている。両科目の特性を活かし、今日の社会情勢を踏まえながら、従来の学問分野の枠組みを越えた学際的で、学生にとってもさらに魅力的な科目を設定できるよう検討を進めていきたい。

以上